

携帯端末使い地元食材探し

野田小
児童



野田漁港の養殖施設で、タブレット端末を使いながらホタテについて学ぶ小学生たち

久慈市のNPO法人・北いわて未来ラボ（中平均理事長）は13日、野田村の子どもたちが地元食材の魅力を再認識するイベント「のだもんろうまい食いもんさがすのだ」を開催した。村立野田小学校の3、4年生13人が参加してホタテやヤマブドウ、南部福来豚などの食材探しをしながら郷土について学んだ。

イベントは子どもたちに東日本大震災の復興について、ヒントを

考えてもらおうと企画され、NTTドコモ（本社東京都）の震災復興活動に対する支援助成金を活用した。

3チームに分かれた子どもたちはタブレット型パソコンを持参して村生涯学習センターを出発し、探検の途中で発信される「指令」の下、村内4カ所を探検。最初に野田漁港を訪れた4年松葉良太君（二〇）ら男女4人のチームは、村漁協の担当者から野田ホタテに関する説明を聞きながら、食材の写真撮影や画像データの送信などに励んでいた。

まとめの成果発表会で中平均理事長は「大人になっても野田村のよいものを自慢できるようになってほしい」とあいさつ。最後に指令完了記念のバッジをもらった4年小野寺優花さん（二〇）は「ホタテの養殖場や野田塩の工場を見られて楽しかった」と話していた。

（水野大輔）